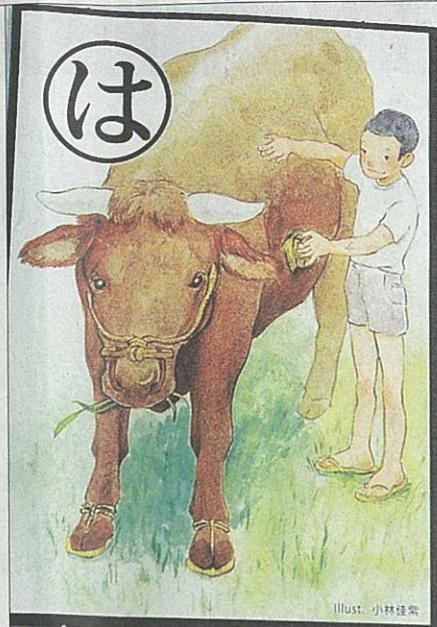


成安造形大生作 懐かし風景48枚

は働きもの 牛の足にも 薫の脊



「近隣」と結で屋根葺き
煤だらけ「働きもの牛の足にも藁の沓」――。いろは48枚のカルタには、田植えや稲刈りなどの農作業のほか、嫁入り行列や祭り、かまどでの飯炊きや五右衛門風呂など、昭和20~40年代の仰木地区の暮ら

しの風景を取り上げてい
る。

カルタづくりは、同大学
の付属機関「近江学研究
所」の研究員で風景画家の
永江弘之准教授が呼びかけ、
学生12人が参加して2
011年6月に始まった。
学生たちは地元の老人ク

大津市仰木地区のお年寄りの思い出を元に、山里の暮らしへ振り返った「仰木ふるさとカルタ」を、地元の成安造形大学の学生らが2年がかりで完成させた。絵札には、昔懐かしい生活の様子が素朴なタッチで描かれており、学生たちは「身近な地域の再発見につなげたい」と話している。

山里の暮らしを 描いたカルタです

お年寄りに思い出聞き取り

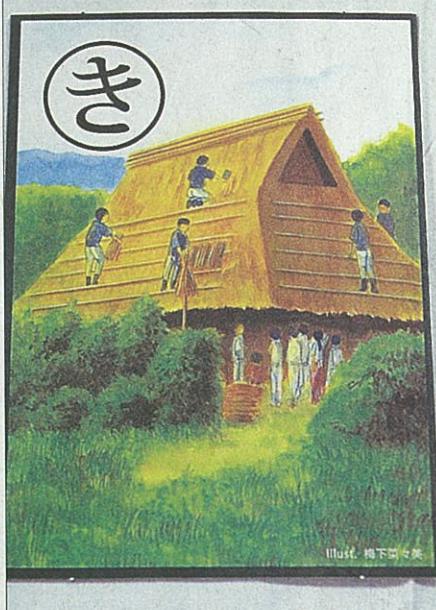


できあがった「仰木ふるさとカルタ」について話す永江弘之准教授（右から2人目）ら＝大津市の成安造形大

ラブに所属する60～90代のお年寄りに昔の暮らしについてアンケートをし、このうち約60人から子ども時代の思い出などを聞き取り、地元の俳句愛好家に協力を求め、48の読み札にまとめた。当時の写真などを集め

て参考にしたが、モノクロ写真が多く、聞きとりを重ねて色合いを決めた。手描きのぬくもりを生かし、お年寄りの心に残った光景を忠実に再現するため、絵柄や構図に工夫を凝らしたといふ。

地域。カルタが世代を超えて、地区的魅力を伝える道具になれば」と話す。
仰木ふるさとカルタは27日から同大学で販売される。解説書つきで2800円（税別）。問い合わせは近江学研究所（077-7・574・2118）。



き近隣と 結で屋根葺き 煤だらけ

さん、おばあさんが暮らし
中の場面を、細かいところまで覚えていて驚きました」という。聞きとりに協力した飯田昌孝さん(74)は、「出来上がったカルタを前に、「優しいタッチの絵を眺めていると、懐かしい思い出がよみがえってきます」とほほ笑んだ。